

# ダイオキシン類の蓄積状況等の調査結果（平成 18 年度）

## 環境省



環境省は、人や野生生物におけるダイオキシン類の蓄積状況を把握するための実態調査を経年のに行うとともに、ダイオキシン類の人への暴露量を把握するための暴露状況調査、臭素系ダイオキシン類の一般環境中の存在状況を把握するための調査を実施し、平成 18 年度の調査結果を取りまとめて公表しました。

人に対する蓄積の調査結果では血液測定の全国平均値は 21pg-TEQ/g-fat、範囲は 0.98～77pg-TEQ/g-fat、濃度レベルはこれまでわが国で行われた既存調査とほぼ同じでした。また、年齢が高くなるごとに血液中ダイオキシン類が高くなる傾向が認められたそうです。

野生生物への蓄積の調査結果ではアカネズミやタヌキで肝臓のダイオキシン類蓄積濃度が体躯に比して高く、肝臓における高度の集積が確認されました。蓄積濃度の平均値は全般に昨年度より高く検出されましたが、明瞭な経年的増減傾向は認められなかったそうです。

人における暴露の実態調査では食事経由が 1.2pg-TEQ/kg/day、大気経由が 0.015pg-TEQ/kg/day、土壌経由が 0.0041pg-TEQ/kg/day で、総暴露量は 1.22pg-TEQ/kg/day となり、食事からの暴露量は全体の 9 割を占めているそうです。

臭素系ダイオキシン類の存在状況では P・Q・R の 3 地点について大気、降下ばいじん、土壌、地下水、水質、底質、水生生物、野生生物、食事試料、ハウスダストについて調査を行い、P 地点における水生生物、Q 地点における地下水、野生生物、食事試料以外全ての媒体で臭素系ダイオキシン類が検出され、また、R 地域では全ての媒体から検出されたそうです。

当社では、発生源試料（排ガス、燃え殻、飛灰、排出水、廃酸、廃アルカリ、汚泥）、環境試料（一般環境大気、土壌、底質、環境水、地下水等）、作業環境、原水、浄水、実験試料などのダイオキシン類の分析が可能です。お気軽に当社営業までご相談下さい。

資料 2008 年 6 月 5 日付 環境省ホームページ 報道発表資料

クロマト分析箇所 戸邊真一